

つ妻子女んぞくゆりたてちりくは成りけりぬむん
あつりり形勢うかきこしは人 公儀のいさうはよけ
まハ近日繁昌し七跡系宝庫は満ちしやち由多川が
十徳とはかる事をややらん 誠は不義うしき富る者
浮けの雲のもししは聖賢の云く正徳二年の夏よりし
てとんとしの身の為まはしやある者し未あは代り武
功の家家は水監と申す雖も双珠の所りなるがほいさ中
ともをうひあつたぬけくの外ぬらんよまてとんとん
のむかひしをのみぬく申すは素なるいしんの言もたんと
あははるる天命のうたぬ事申すは花解りありしに

役様かゝりしよりあけられしは養世二月はあつハ
毛氣保らりしは位とらんぬまのいなるりりかくてし
んはくし御定は近江路也何しは車の手おし宿和を
うしき立寄りえりし果由り身の上と誠うしり未打景し
袖をたてたつ病よあとしなくしつともなく病二
人未りつし一首の身り

近江鮎水野出とかなは流されし全奥根奥の末はうくある
といふ聲の下よりも忽大水をわくいつくもはく流さ
り漸くともかきしよせりしをえりし侍口人あつどんし
てまはるし萩系は由りしものふまハは席の人よりあ

六つくと尋りて生時人申我はは程に役不相成の
者ありは不い合湯不とい吾へりる萩原ゆりてさては左
祐我ともも其同席とていあ一匹近付りて之と古く
の貪欲一夜の旧友之萩原成りてさるむりの車のみ
いをわし後悔とてと人ともも氣之と申ふ人もふし
去程は彼の口人うま計りぬ大水の園と死つて車あれ
と歌く甲斐しあやうとては名一はわらと萩原を付ひく
あ六町も行くとて之一が砂降山つてさるり萩原に
人よ甲申り駿河へや来りり人と思ふをよとが申りり
時より四人吳形吳類の姿とあり萩原を一同よとつ

とて人ていふやいふや萩原我をいふ成り者
と申ふらん金銀と大錢とて申りの人の権魂之丈金銀と
申せしは新玉通用の物あれも天下第一の賊と申す之丈成
はり浅き後凡心の急業とて世との傍りもつりみち冷亦
金を取交一人の信心さるりり何とてはも今更な役成
りともく日影物位めくする有程は杖や悲しむか
るるハ車のた後思世用永久空待な一ツ眼の法師とあり
引さる人んと飛掛る新詔人のめんて申りも逢ふ
とかけあるあは京ハ元もも生えつては総破之を辨通廻はる
不子察承山も形有り我名を偏成へあかりの百石

二女の妙金をする姓ふくをともむ所の先山為江何口先
の城はてを人の心為る大なる困窮し一家人の姓町に
延石ぐまつ先の世居ともあり行りつりかあり山劫略それ
打らるるをいり少きなり一人一和よきも世を指しあり
打らるるやとみれば縁し心もかかれ世後刻き先
まより山川より入るる衣のつりて家ありゆり首の指する
の内床柱の片服なり夜を明しひるるを後世よき
遠別嶺松よれわくく久我大納言
辰十一月二日夜星の奇

二日夜のまの如しあり月夜星の奇
星の

此三家をありくの行し今を別るあるさる事とし能く是るあり
るありの監物ありハカリつけり命なりハ此道は能く
やと川水地あるかのつよきとし何のありきぬありぬ
麻の馬ウ印とも知るぬ大先君部友をば様とあり
以多ハ玄楯心の如く神を月形と神のありて此世界
よく見直し交代しありあり我身楯りのあり

三幅對

右 市川團十郎

中 井伊掃部頭
左 祐天大僧正

享真六世上一切王九老公方は也よ小判ちんらん
日の本ハミカたぐさよの代前也ハ民の妙よも張るひなり
太田より上六門記とありを——今ハ以方り勝田常刀
○ 以書多謠曲よ作るよ人男といふ物の実録之巻末孫礼
と条よあ人の名行り 其以ハ七世と号——其邦異名の犯者
救多行り——是を以て是者といふ——とらん色掛るに大板
町年寄の川用帳といふ所——又を後巻と——とあり
四月若松野河内当殿と有ハ其源の大板町年寄といふ由

中山才右衛門及大田居ち又辰といふハ甲役ありり中山才右衛門
是又町年寄ありか後出雲と稱元禄十六年十一月廿八日
六百石加思う——町年寄行り上指——以跡役不立 作自
南人勤と成右田居ち又辰又町年寄あり——後和泉ととも
其源三人勤——由之^{以上甲役代礼} 町年寄元右衛門松本孫右衛門松井
与次右衛門ハ町年寄あり名あり角——町年寄といふハ町年寄
名圖——町年寄あり分り日或ハ上下を念——与力
同心とも同籍よ白洲ハ吟味と評列席とあり板の凡儀と
評ハ町年寄と異なるもの之是りを御使と唱へるとあり
松町年寄執向と大板を勤——人お中——他日校正

